

1. 営業・輸送概況
2. 技術ビジョンのアップデート
3. 佐川急便との共創の取り組み

詳細

1. 営業・輸送概況

【運輸取扱収入（速報値）】

収入につきましては、4月は前年比で103.6%、5月は21日までですが105.4%でございます。

運輸取扱収入（速報値）

	前年同环比			
	収入計	近距離券	中長距離券	定期券
4月	103.6%	101.3%	105.5%	101.4%
5月 (5/1~21)	105.4%	105.7%	105.6%	104.0%

※実績は直営の速報値。駅などでの取扱高(消費税を含む)を示すものであり、旅行会社での発売分などを除きます。

【新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）】

次に、ご利用状況について申し上げます。山陽新幹線は、4月が前年比で103%、5月が21日までで106%となっております。近畿圏は、4月が101%、5月が21日までで100%となっております。

新幹線・在来線特急・近畿圏のご利用状況（速報値）

	前年同环比			
	山陽新幹線	北陸新幹線	在来線特急	近畿圏 自動改札通過人員
4月	103%	108%	98%	101%
5月 (5/1~21)	106%	111%	100%	100%

※実績は速報値。

4月から5月にかけては、ゴールデンウィークもございまして、新幹線を中心に多くのお客様にご利用いただきました。

引き続き皆様に安心して、ご利用いただけるよう、安全 安定輸送に努めてまいります。

2. 技術ビジョンのアップデート

次に、「技術ビジョンのアップデート」について、ご説明いたします。

技術ビジョンの策定（2018.3）



“技術で切り拓く交通の進化”をコンセプトとして策定

- ・ 約20年後の「ありたい姿」
- ・ モビリティ分野を中心に課題解決の手段として技術を活用する方向性



はじめに、現行の技術ビジョンについて簡単にご説明をいたします。2018年に策定しました現行の技術ビジョンは、「技術で切り拓く交通の進化」をコンセプトに、モビリティ分野を中心に課題解決の手段として技術を活用するという方向性を示したものでございました。

技術ビジョンのアップデート



■ 技術ビジョンアップデートの背景

これまでの技術ビジョンと成果



代表例：大阪駅（うめきたエリア）

技術ビジョンを具体化する「イノベーションの実験場」



急速な技術進化や事業環境の変化

技術ビジョンをアップデート

「技術で動かす、心と未来」をコンセプトに
さらなる共創と挑戦を通じ、
当社グループの成長と社会価値の創出を目指す

JR西日本グループ 中期経営計画2030



この技術ビジョンのもとで、これまでJR西日本グループでは「オープンイノベーション」を推進してまいりました。例えば大阪駅のうめきたエリアでは、「イノベーションの実験場」として、フルスクリーンのホームドアや顔認証改札などの新たな技術を実装してまいりました。

一方、この間、生成AIをはじめとする技術は急速に進歩し、また人口減少や設備の老朽化など、私どもを取り巻く事業環境も大きく変化してまいりました。こうした状況を踏まえ、今年度策定いたしました「中期経営計画2030」にあわせて、技術ビジョンのアップデートを行いました。新しいコンセプトは「技術で動かす、心と未来」でございます。社外の皆さまとのさらなる共創と挑戦を通じ、JR西日本グループの成長と社会価値の創出を目指してまいります。

アップデート版 技術ビジョン全体像



■ 挑戦分野を12項目から18項目にアップデート



8ページをご覧ください。こちらの図がアップデート版の技術ビジョンの全体像でございます。挑戦分野を12項目から18項目へと拡充いたしました。特に、今回のアップデートの大きな特徴は、モビリティ分野そのものも引き続き進化させつつ、その成果や知見を「まち・暮らし」や「持続可能な社会」への価値創出につなげていくという、新たな挑戦領域を明確にしたことでございます。

鉄道の更なる安全性向上と持続的進化

先手の対応による自然災害リスクの低減

構造や材料を見直すことで、設備の強靱化を進めます。さらに、**気象データや災害履歴等の分析から、運転休止の判断精度を高めます。**災害に備えた先手の対応により、自然災害によるリスクを低減します。



○具体的取り組み

ゲリラ豪雨を知らせる「鉄道気象AIエージェント」の開発と実装に向けたプロジェクトを開始
～株式会社ウェザーニューズとの共創～



それでは、具体的に、3つの重点分野ごとに、取り組みの事例をご紹介します。まず、赤色で示しております「鉄道のさらなる安全性向上と持続的進化」についてです。今回のアップデートでは、「運転見合わせなどの判断を早期に行う先手の対応により、自然災害リスクを低減する」という視点を新たに加えました。

その具体策として、ウェザーニューズ様と連携し、ゲリラ豪雨を予測・通知する「鉄道気象 AI エージェント」の開発・実装プロジェクトを開始いたします。ウェザーニューズ様は、独自の観測網と高度な予測技術を持つ世界最大級の民間気象情報会社でございます。近年、ゲリラ豪雨のような局地的かつ予測が難しい気象現象が増加し、鉄道運行への影響も大きくなっています。こうした中、JR西日本グループが培ってまいりました、状況に応じて適切な対応を行うきめ細やかな運行計画のノウハウと、ウェザーニューズ様の気象予測技術、さらに生成 AI 技術を組み合わせることで、予兆の段階で先手を打った運行の判断や計画の策定が可能となり、安全性やお客様の利便性向上につながるものと考えています。まずはゲリラ豪雨を対象に開発と実証実験を進め、将来的には運行計画の意思決定支援と、それを通じたさらなるカスタマーエクスペリエンス (CX) の向上にもつなげてまいります。

いきいきとしたまち・便利で豊かなくらし

多様なパートナーとの共創による心動く顧客体験の追求

事業者の枠を越え、リアルとデジタルを融合し、新たな旅の動機と体験価値を提供します。行動データと沿線・拠点まちづくりの知見を組み合わせ、地域の魅力を引き出す仕掛けを創出します。さらに、交流拠点を形成し、**多様なパートナーとの共創により、関係・交流人口の拡大や地域活性化につなげます。**



○具体的取り組み

【鉄道と航空の予約システムの連携によるシームレスな移動の実現】



2026.4.30プレスリリース
鉄道と航空の共創による関係・交流人口拡大とサステナブルなエコシステムの実現

【駅と自動運転タクシーの結節を見据えた実証実験】



2026.5.11プレスリリース
駅と自動運転タクシーの結節を見据えた実証実験開始のお知らせ
JR 新大阪駅におけるアプリ専用タクシー乗り場の設置

続いて、青色でお示ししている「いきいきとしたまち・便利で豊かなくらし」について、今回のアップデートでは、多様なパートナーとの共創による心動く顧客体験の追求を掲げております。

具体的には、鉄道に加え「航空」や「自動運転タクシー」など、多様な移動手段と駅・まちがシームレスにつながる共創エコシステムの構築を目指しております。すでに、JAL 様や ANA 様といった航空との連携や、タクシー配車アプリを提供される GO 様との実証について発表しているところでございます。このような取り組みを通じまして、一人ひとりのお客さまに最適な移動体験を提供し、関係人口や交流人口の拡大、そして西日本エリア全体の活性化に貢献してまいりたいと考えております。

持続可能な社会

鉄道で培った技術の展開による社会課題解決

当社グループ内で培ってきた様々な技術やノウハウを活用し、モビリティ分野にとどまらず、多様な領域へ応用します。国内外含め鉄道技術を拡げ、新たな異業種連携やビジネスモデル創出を通じて社会課題解決に挑戦します。



○具体的取り組み

【鉄道インフラ検索サービス「デジタルレールマップ」】
複数の鉄道事業者において、
メンテナンス業務の効率化・異常時の情報共有の迅速化



最後に、緑色でお示ししております「持続可能な社会」についてです。今回のアップデートでは、モビリティ分野にとどまらず、鉄道事業で培った技術やノウハウを活用し、幅広い社会課題の解決に活用していくことを目指しています。

具体的には、鉄道業界内の話といたしまして鉄道インフラデータ検索サービス「デジタルレールマップ」を起点としましたソリューション群を、複数の鉄道事業者様に導入いただいています。今後も、こうした技術やノウハウを社会全体へ広げることで、持続可能な社会に貢献してまいりたいと考えております。

技術ビジョンのアップデート



「第2回 鉄道技術展・大阪2026」への出展

- 開催期間：2026年5月27日(水)～29日(金)
- 会場：インテックス大阪 3・4・5号館
(大阪府大阪市住之江区)
- 当社の最新情報や最新技術をご紹介
- 当社グループに関する出展情報を弊社WEBサイト「**JRW innovation platform**」に掲載

<https://media.jrw-ip.jp/news/7890/>



新しい技術が知りたい!
こんな技術があるんだけど、
なにか社会課題解決に使えないかな?

人がやっている作業を自動化したいけど、
どうしたらいいんだろう...

Innovation platform を通じてお問い合わせください!

 お問い合わせ	 ヒアリング	 ご提案	 ご提供・課題解決
WEBサイト下部のお問い合わせフォームからご連絡ください。	担当者よりご連絡させていただいた後、お取りこみや要望についてお問い合わせいたします。	お客様に応じた課題を業種・業種で解決できることもご提案させていただきます。	ご提供させていただいただけでなく、お客様のフォローやコミュニケーションも行ってまいります。

今回ご説明した内容の一部につきましては、本日5月27日から29日までインテックス大阪で開催されております、「第2回鉄道技術展 大阪2026」でもご紹介しております。実際の技術をご覧いただく機会となっておりますので、ぜひご来場いただければと思います。

3. 佐川急便との共創の取り組み

次に、佐川急便様との共創の取り組みについて、ご説明いたします。

佐川急便との共創の取り組み



2026年4月に公表した「中期経営計画2030 - 次なる成長に向けた共創と挑戦 -」に掲げる「共創による顧客体験価値向上」の実現に向けて、新たなパートナーとの協業を開始します

中計2025振り返り ありたい姿 中計2030 (全社横断戦略)

③-1 共創による顧客体験価値向上 モビリティ 生活サービス

方針 一人ひとりに最適化された体験価値の提供を通じて、関係・交流人口の拡大と、移動におけるサステナブルなエコシステムを実現

2030 目標 共創プラットフォーム取扱高※1 340億円

移動の共創プラットフォーム

関西 民鉄

2次交通

物流

航空

ANA

JR

鉄道×航空による広域な移動サービス

お客様が移動に関連した多様なサービスをシームレスに利用できる仕組みを構築し、一人ひとりに最適化された移動体験を提供

今後も様々なパートナーとの共創を拡げ、移動におけるサステナブルなエコシステム※2を実現

旅を便利にする機能拡充

※1 共創パートナーの拠出も含む、新たに構築するプラットフォームの取扱高
※2 企業、顧客、パートナー等の多様なプレイヤーが連携し、相互に依存し合う大きな価値を生み出すネットワークや経済圏

当社調査VOC…乗込調査 VOE…社員1000人へのアンケート調査

声の内容	VOC	VOE
荷物サービスの問い合わせ	4%	10%

大型荷物の対処

- ・大型荷物の車内の置き場に苦慮
- ・乗降の妨げによる列車遅延、お客様同士の接触に苦慮

観光庁の課題認識 2025 第5次観光立国推進基本計画

オーバーツーリズムの未然防止・抑止に向けて、「手ぶら観光の推進」が必要

西日本エリアにおいても地方誘客が課題

「旅を便利にする機能拡充」に向けて、佐川急便株式会社との協業を開始

当社は、4月30日に公表しました「中期経営計画2030」において、「共創による顧客体験価値向上」を掲げております。

様々なパートナーの皆様と共創プラットフォームを構築することで一人ひとりに最適化された移動体験を提供し、西日本エリアの関係人口や交流人口の拡大と、移動におけるサステナブルなエコシステムの実現を目指しております。

本日は、この共創プラットフォームを構築する要素の一つである物流分野についてご紹介いたします。訪日観光客の大型の手荷物は、お預かりや持ち運びなどのお困りごと、いわゆるペインの解消が各地での誘客における課題となっております。

これらに対応する環境が整ったエリアへのオーバーツーリズムの一因ともなっており、西日本エリアにおいて重要な課題と考えています。

こうした課題の解決に向け、「旅を便利にする機能の拡充」を目指したいと考えており、本日、全国の物流を担う佐川急便様と連携協定を締結いたしました。

佐川急便との共創の取り組み



(目的)

JR西日本グループが提供するモビリティをはじめとする様々なサービスと佐川急便株式会社が持つきめ細やかな物流網や豊富なオペレーションのノウハウ共創を通じて顧客体験価値の向上に挑戦



インバウンドを中心とした「交流人口の拡大」

モビリティとロジスティクスの共創エコシステム



手荷物の当日配送

モビリティとロジスティクスサービスのシームレス化

佐川急便様が持つきめ細やかな物流網や豊富なオペレーションのノウハウとの共創を通じて「顧客体験価値の向上」に挑戦し、インバウンドを中心とした「交流人口の拡大」を目指してまいります。

具体的には、「手荷物の当日配送」そして「モビリティとロジスティクスサービスのシームレス化」の取り組みを進めてまいります。

佐川急便との共創の取り組み



手荷物の当日配送

移動前からシームレスに利用できる手荷物サービスで、地方を中心とした観光における課題を解決

観光に付随する手荷物の課題



鉄道での観光では手荷物の持ち運びが大きな課題と認識

両社の共創による課題解決

新幹線による高速な広域配送



+

トラックによるきめ細やかな地域内配送



当日に手荷物を目的地に送るサービスを提供

■提供するサービスのイメージ



鉄道による人の移動と付随する手荷物配送を移動前に予約・決済



移動前の予約を元に駅や空港、ホテルでスムーズに荷物を預入



手ぶらで観光を満喫し、移動先の駅やホテルで当日に荷物を受取

まず、「手荷物の当日配送」については、佐川急便様のきめ細やかな地域内輸送と当社の新幹線による高速かつ広域な輸送を掛け合わせることによって、サービスエリアの飛躍的な拡大を目指します。

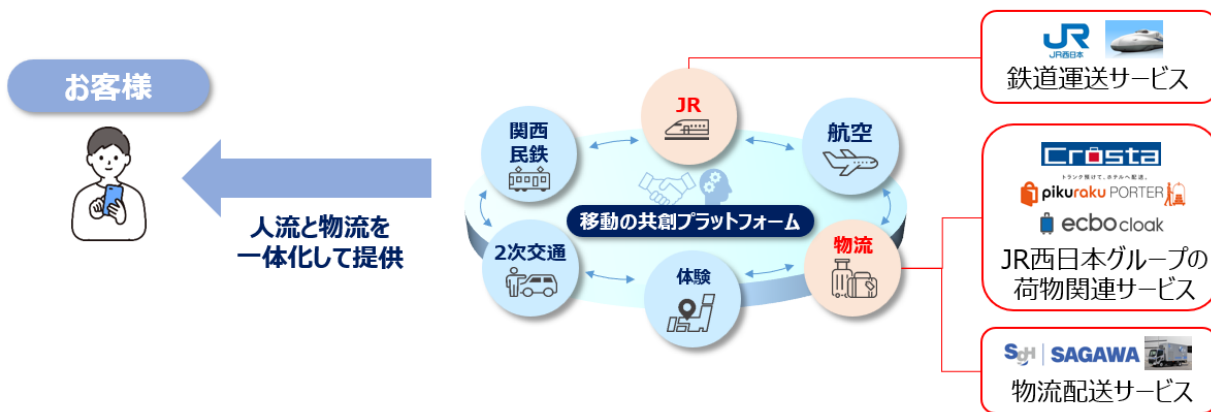
これによりまして、お客様は、移動前の駅やホテルでのスムーズな預け入れや当日に移動先で荷物を受け取ることが可能になり、手ぶらで観光いただくことができます。

佐川急便との共創の取り組み



モビリティとロジスティクスサービスのシームレス化

移動の共創プラットフォームを通じてモビリティとロジスティクスサービスをシームレスに提供



2030年代を目途に、共創プラットフォームから、移動に関連した多様なサービスの提供を目指す

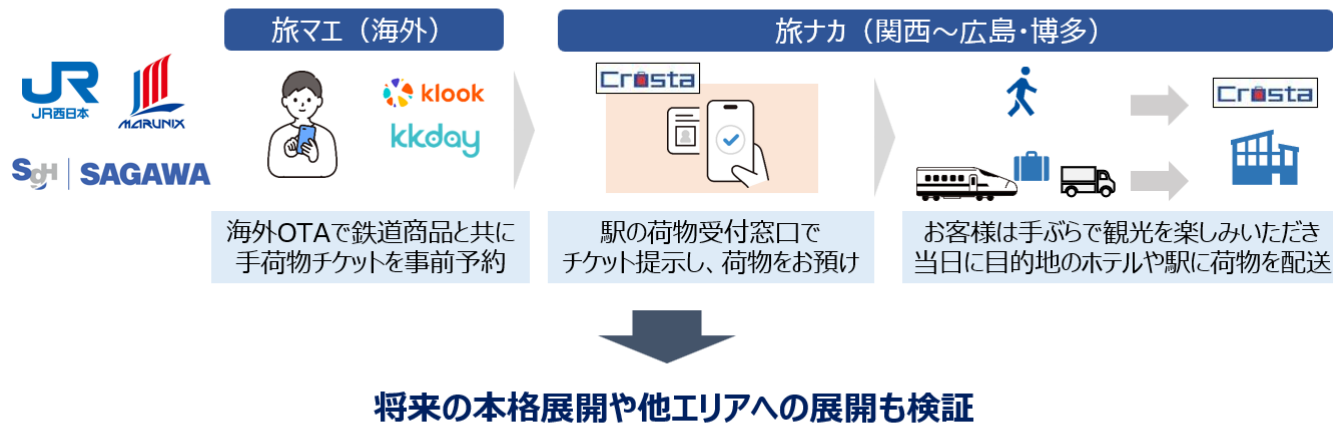
さらに、2030年代には、両社のシステムを連携することでモビリティとロジスティクスサービスをシームレスに繋ぐことを目指しております。

これにより、お客様はモビリティとロジスティクスの両方を一括で予約・決済することが可能になります。このような取り組みにより、「顧客体験価値の向上」を実現し、「交流人口の拡大」に繋げてまいります。

佐川急便との共創の取り組み



JR西日本グループと佐川急便の共創による手荷物当日配送サービスの実証実験を6月24日より開始



一人ひとりに最適化されたシームレスな移動体験を提供し、西日本エリアの交流人口の拡大と、移動におけるサステナブルなエコシステムの実現を目指す

取り組みの第一歩として、6月24日からインバウンド向けに手荷物当日配送サービスと、モビリティとロジスティクスの一括予約の実証実験を開始いたします。

京都・大阪方面から広島・博多間において、駅・ホテル等に手荷物を当日配送するサービスでございます。インバウンド向けのオンライン旅行代理店で旅行申込時に鉄道商品と併せてご購入いただくことができます。

実証実験の結果を踏まえ、将来の本格展開や他のエリアへの展開も検証してまいります。

今後も、様々なパートナーとの共創により、一人ひとりに最適化されたシームレスな移動体験を提供し、西日本エリアの交流人口の拡大と、移動におけるサステナブルなエコシステムの実現を目指してまいります。